



令和6年11月1日
目黒区立目黒本町保育園園長

「芸術の秋」

金木犀の香り漂い秋の深まりを感じます。先日の運動会では保護者の方の暖かい視線に見守られ一人ひとりの子どもたちが自分の力を発揮し楽しんでいました。お忙しい中ご参加頂きありがとうございました。次の週、幼児クラスが運動会で楽しかったことの絵を描きました。3歳児クラスの子の絵はクレヨンを用紙いっぱいを使ってなぐり描きをしたり、顔の大きい頭足人の自分や友達を沢山描いたりしています。アイスクリーム屋さんになって広い校庭を走ったこと、自分や友達が笑っていたことが思い出されるようです。4歳児クラスの子の絵は玉入れが沢山描かれていました。お父さんとお母さんと一緒に競技が子どもたちにとって何より楽しかったことが伝わります。そして5歳児クラスはより細かい部分を表現できるようにサインペンと絵の具を使いました。年下クラスとの大きな違いは友達が沢山描かれている所です。友達と一緒に協力して頑張ったという充実感を感じます。描画の活動は作品を作りあげるだけではなく、子どもたちの心の動きを表現しています。子どもたちの声に耳を傾け言葉では表せない子どもの気持ちに寄り添っていきたいと思います。先月より乳児クラスの保育参観が始まりました。保護者の方とお子さんの姿を共有し、成長を喜び合える時間にしていきたいと思います。



行事予定

焼き芋会	全園児
交通安全教室	3～5歳児
歯科検診	全園児
子ども劇場	3～5歳児
中旬 身体計測	
避難訓練	



園庭だいすき



米作り

～らいおん組～

田起こし



代掻き



田植え



米という字は「八十八」という文字から作られ、88回もの手間をかけてお米ができると言われています。「美味しいお米になるように良い土を作らなきゃね」と固まっている土を手でほぐし、足で踏んでとろとろの泥を作りました。「とろとろの泥ができたから触ってみて」「まだまだ固いよ」と子どもたち同士で泥チェックをしたりしながら、5歳児クラスの米作りが今年も始まりました。田植えを終えると次は水やり「田んぼの水が温かいと苗が枯れてしまうよ」と毎日の水やりでは手で水温を確認、用務職員と一緒に水の入れ替え作業です。藻や虫取りでは「うわっ、なんか気持ち悪い」「やだなー」とつぶやきながらも「美味しいお米のために」と手を休めることなく頑張っていました。稲はすくすくと育ち稲刈りでは、はさみを使い「硬くて切れない」と苦戦しながらも干した稲を見て「沢山取れたね」と満足気です。脱穀・籾殻取りをして玄米になるまで、まだまだ大仕事が残っていますが「おにぎりにして食べたいな」「カレーもいいね」と自分たちの特別なお米を食べる日を楽しみにしています。

除草



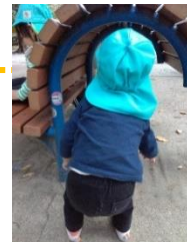
稲刈り





ひよこ組（0歳児）

『おもしろいこと、みつけた』



小山台公園には背もたれがトンネルのようになっているベンチがあります。保育士が「おーい、見えだね」と反対側から手を振ると、子どももしゃがみ込んで「おー」と返事が返ってきます。「どこかな、どこかな」とお互いに顔を隠したり出したりしながら「ばあ」と楽しんでいました。笑い声を聞いた他の子が“自分も”と這い這いで駆け寄ってきて「んーあー」と声を出して同じように顔をのぞかせて笑いかけています。初めはくぐり抜けることに様子をうかがっていましたが、遊んでいるうちに一歩中へ入ってみると、ベンチの天井が頭の上ぎりぎりの高さなので不思議そうに空間を見回しています。子どもが隙間から覗いて指を入れて楽しんでいるので、保育士も反対側から「ここだよ」と葉っぱを差し込んだり、左右に動かしたりしてみました。揺れている葉っぱをうまく掴んでシュッと抜くと、ぎゅっと握りしめて「んおお」と嬉しさを声で表現しています。「次はどこかな」とベンチを挟んで楽しんでいきます。戸外でも保育士や友達とやりとりしながら楽しく探索しています。



りす組（1歳児）

『どんぐりあったよ』



この時期公園にはどんぐりがたくさん落ちています。保育士が「どんぐりころころ」と歌うと、子どもたちも一緒に歌いながら「どんぐりあるかな」と木の根元をのぞき込んで探し始めます。以前同じ場所で虫や木の実を見つけたことを思い出したようです。保育士が落ち葉を掻きわけてどんぐりを見つけると、同じように落ち葉を掻きわけ見つけたどんぐりを「あったよ」と保育士や友達に見せてくれます。手に握りしめながら次のどんぐりを探し続けるとちょっと変わったどんぐりを発見。「これはなに」と不思議そうに見ていたのが「ぼうしかぶっているね」と保育士が声をかけると「おんなじ」と自分と保育士の帽子を触って嬉しそうでした。遠くの友達の「あったよ」という声に、ぼうしをかぶったどんぐりがあるかもとワクワクしながら走り寄っていました。秋の自然物の面白さ、不思議さを子どもたちと一緒に探索し楽しんでいきます。



うさぎ組（2歳児）

『巨大ミミズとの遭遇』



「虫探そう」と気の合う数名の子が集まって、いつもの様に枯れ葉や枯木をかき分けて虫探しが始まります。すると園庭では見ることもない15cm程の長さの太くて大きいミミズを発見。思わず「うわ、ミミズだー」「おっきい」と発見した子が声をあげると、どれどれどんなミミズだというように子どもたちが集まり頭を突き合わせて見えています。ちょっと触れると体をくねくねと動かし、その動く様子を食い入るように見る子どもたちです。一人の子がミミズを持ち上げると更に激しく動き「うわっ」と驚いて尻もちをついたり「かわいい」と後ずさりしたりしますが、それでもやっぱり巨大ミミズが気になり恐る恐る見えています。地面に戻すと、枝で突く子や触ってみようとそっと手を近づける子「だめだよ。死んじゃう」と枝で触るのを止める子など様々です。散歩先で出会う身近な虫に興味を持ち、一人ひとり違った形で虫との触れ合いを楽しんでいます。